

## 麻疹(はしか)

## この冬は急激な患者の増加が確認されています

先進国ではすでに過去の病気と言われていた麻疹。

それが、この冬は特に大阪府など西日本地域で患者の増加が多く報告されています。

今回(平成31年2月現在)は海外での感染患者をきっかけにした感染拡大がみられ、特にワクチンの二回接種をしていない方は感染する可能性が非常に高いため特に注意が必要です。

## 麻疹の症状とは？

麻疹は麻疹ウイルスによって起こる感染症で、空気や飛沫、接触感染で人から人へ感染します。

感染すると10日から12日で90%という高確率で発症するとされ、この発症前後が周囲に感染させやすい期間のようです。

発症後の症状は以下のように進んでいきます。

初期症状としては発熱や咳などがあり、38℃前後の発熱が数日間続きます。

また倦怠感があり、咳や鼻みず、くしゃみなどのどや鼻の炎症、目の充血や目やになどの結膜炎症状が現れるなどして次第に強くなります。

小さなお子さんでは下痢、腹痛を伴う消化器症状も多くみられます。発疹が現われる1～2日前ごろには口の中の頬の裏側に小さな白色の小さな斑点が現れます。この斑点(コプリック斑といいます)は麻疹に特徴的な症状で、発疹出現後2日目を過ぎる頃までに消えてしまいます。また口の中の粘膜が赤くなり、口蓋部には粘膜疹という発疹がみられ出血を伴うこともあります。

のどや鼻の症状や目に現れる結膜炎症状をカタル症状といい、この時期を「カタル期」といいます。

その後体温は1℃ほど下がり、さらに半日くらいの内に再び高熱(39℃以上が多い)が出るとともに、発疹が現れます。この発疹は耳の後、首、あごから出始めて、翌日には顔面、体幹部、上腕が、2日後には手足の先端まで覆ってしまいます。発疹が全身に広がるまで高熱(39.5℃以上)が続きます。

現れる発疹ははじめの内は平たい形をしていますが、まもなく皮膚から隆起し、発疹同士がくっついてまだらな不定形になります。鮮やかな赤だった色は赤黒くなり、現れた順序に従って退色していきます。この時期は高熱が続き、カタル症状が一層強くなります。この時期を「発疹期」といいます。

発疹出現後3～4日間は発熱が続きますが、その後は解熱し、肉体的にも精神的にも快方に向かい、カタル症状も次第に軽くなっていきます。発疹は黒ずみ色素沈着の状態になりしばらく残ります。おおよそ7～10日後には主な症状が回復に向かう「回復期」に入ります。

ただしリンパ球などの免疫力が低下しているため、しばらくは他の感染症にかかると重症になりやすく、結局体力等が戻って来るには結局1ヶ月位を必要とすることが珍しくありません。

このように麻疹の主な症状は発熱が約1週間続く上にカタル症状も強いため、合併症がなくても入院を必要とすることが多く、回復までに時間がかかるとも重症な病気です。

## 必ずワクチンの接種をしましょう

麻疹のワクチンは第1期と第2期に1回ずつ、計2回接種します。

## 1期

生後12～24カ月未満

## 2期

5～7歳未満で小学校入学前の1年間(通常、幼稚園・保育所児の最年長児)

出典: 国立感染症研究所ホームページ

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles/221-infectious-diseases/disease-based/ma/measles/549-measles-qa.html#Q1-02>

From the author... マスクでは麻疹ウイルスの侵入は防げません。ワクチン接種で免疫を得ておくことが最善です。

